

らいぶ LIVE 創 REATOR つくりえいたー

NO.61
2012年6月
研究広報誌

学びをデザインする子どもたち

～3つの対話の充実によって～

CONTENTS

- 2012 夏季教科領域別研修会のご案内……………1
- 複式研を終えて：「第12回複式授業研究会を終えて」……………2
- 学習紹介：今、ここがすごいよ！ ふるさと和歌山……………3
- 学習紹介：複式5・6年の算数学習……………4
- 学習紹介：生命の不思議や神秘性を感じるために！……………5
- 学習紹介：見直そう 食事と生活のリズム……………6
- 学習紹介：CO（要観察菌）をもつ子どもへの保健指導……………7
- 学習紹介：インタビュー名人になろう！～子どもたちのやってみたいを言語活動に～……………8

26日(木)

午前の部 9:30～12:00

午後の部 13:30～16:00

社会：伝説の教師・築地久子先生がやってきます。午前中は本校実践発表と築地先生の授業ビデオを見て、ワークショップ形式の研修を予定。午後からは築地先生のご講演があります。ご期待ください。

算数：第1部は本校算数部の実践発表をします。第2部は今田実先生（橋本市教育委員会教育総務課指導主事）による算数における言語活動についてのワークショップとご講演を予定しています。

家庭：前半の部は6年生での1学期の取り組みから実践発表を行います。後半の部では実際に野菜や大豆で作られている農家の川端さんをお招きして、「味噌造り」を教えていただき体験していただきます。

音楽：本年度も、佐野靖先生（東京藝術大学）をお招きしています。本校の「旋律づくり」の実践報告（江田）をもとに、「音楽づくりの課題と可能性」について講演していただきます。

複式：1学期の授業の様子をビデオで紹介します。今年は、主体的な学び合いを、どのようにみとり、支援するかをテーマに取り組みます。後半は、複式実践の良さや悩みについて交流したいと思います。

体育：本校の1年生と6年生の実践発表をします。講師に川畑豪則先生（和歌山県教育委員会）をお招きし、2学期からの授業に役立つ「授業づくりのポイント」についてお話していただく予定です。

2012夏季教科領域別研修会 ～ご案内～

参加費：1,000円（資料代を含む）
当日受付も行いますが、準備の都合上、事前の申込みをお願いします。
◇再入場の際には領収書をご提示下さい。

27日(金)

午前の部 9:30～12:00

午後の部 13:30～16:00

国語：午前は、高松小学校 児玉由佳先生が「大造じいさんとガン」で、本校湯浅明菜が「一つの花」で実践報告。午後は、国立教育政策研究所学力調査官の水戸部修治先生のご講演です！（定員200名）

理科：午前の部は馬場敦義（本校教諭）による3年生の授業を公開します。午後の部は本校理科部と市理科研からの実践発表、さらに、明日の授業にいかせる教材紹介を予定しています。

生活：和歌山市生活科・総合教育研究会と共催して行います。授業実践発表（和歌山市から・附属から・食育教育との合科など）をし、ご参会の皆様と意見交流することで、今後に活かすことができると考えます。

図工：附属小学校で、長らく美術教育に力を尽くされた秋月久俊氏を講師としてお迎えし、図画工作科で大切にしたいこと、実践例などのお話と、紙を使った基本技法が学べる工作を教えていただきます。

総合：和歌山市在住の外国人の方や外国の文化に詳しい方に来て頂いて、みんなで国際理解教育（特に多文化共生）について話し合っていきます。参加した人が多文化共生の魅力を感じられるようにしたいと考えています。

学校保健：久保昌子先生（京都市養護教諭）をお招きして、附属小・中・支援学校の養護教諭が行う実践発表へのご助言を頂いた後、ご講演いただきます。

参加申込みは、FAX または本校 HP(→8 頁)をお願いします。
当日は本校運動場を駐車場といたします。正門左の通用門よりお入りください。

第12回複式授業研究会を終えて

6月16日(土)本校複式学級におきまして、第12回複式授業研究会を行いました。初めての土曜日開催ということで、悪天候にもかかわらず、東は山形県から、西は山口県まで、100名以上の方がお越しく下さいました。

公開授業Ⅰでは、1・2年生複式の国語科(1年生「おむすびころりん」2年生「スイミー」)の授業と、3・4年生複式の理科(3年生「風やゴムのはたらき」4年生「電気のはたらき」)の授業を行いました。

公開授業Ⅱでは、5・6年生複式の算数(5年生「合同な図形」6年生「図形の拡大と縮小」)の授業を行いました。

そして午後からの協議会では、まずワークショップを中心とした全体会を行いました。それぞれの学校の複式での取り組みや悩みなど、少人数で交流しました。子どもたちによる“司会”“記録”の仕方や授業に向かう姿勢など、教科を超えた子ども



1年生にとっては、初めての研究会。ちょっと緊張してるかな??



中学年の理科は、どちらも実験をするという展開にチャレンジしました。

もたちの育ちについて、率直な意見を交換することができました。短い時間ではありましたが、とても中身の濃い交流であったと思います。

引き続きに行いました各教科の協議会では、教科を中心として、さらに活発に討議することができました。

皆様からいただいたご意見をもとに、今後も主体的に学び合う複式教育をめざしていきたいと思えます。成長した子どもたちの様子を、10月27日(土)の教育研究発表会2012においてご覧いただきたいと思えます。

ご参会ありがとうございました。今後とも、和歌山大学教育学部附属小学校複式部をよろしくお願ひします。



午後の部 全体会より



高学年算数の導入は、5・6年合同でおこないました。

今、ここがすごいよ！ふるさと和歌山

～ 県特産品「金山寺味噌」の学習を通して ～

CHANGE
4年B組担任
谷口 佳都司



本年度のCHANGE(総合的な学習の時間)は、学びの筋道を考えて課題解決に向かう子どもを育てるために『探究する学びを創る』をテーマにして取り組んできました。一つの事象について、子どもたちは様々な「問い」をもち、それらを基に学習展開することは土台となります。そして、子どもたちに事象を単なる知識として習得させるのではなく、子どもたちには、「ひと・もの・こと」という具体的な対象とかがかわらせ、それらを追究する過程を通して、自己の生き方を見つけるきっかけにさせたいと考えています。

本稿では、「今、ここがすごいよ！ふるさと和歌山」というテーマで進めている第4学年のCHANGEの中で、「金山寺味噌」を扱った実践を紹介します。

鎌倉時代、宋の国(昔の中国)から帰ってきたお坊さんが和歌山県由良町に西方寺(のちの興国寺)を開き、径山寺で学んだ味噌の醸造法を主に湯浅町を中心に広めたことから、今現代も「金山寺味噌」が和歌山県の特産品となっているそうです。

この学習の初めに、「金山寺味噌」についてのアンケート(28人)を取りました。



- 「金山寺味噌」を知っていましたか？(はい(14人) いいえ(14人))
- 「金山寺味噌」を今までに食べたことがありましたか？(はい(6人) いいえ(22人))
- 家で「金山寺味噌」をどれぐらい食べていますか？
(ほぼ毎日食べている(0人) 1週間に1度くらい食べる(1人) 時々食べる(2人)
あまり食べない(0人) ほとんど食べない(食べない)(25人))



学級の子どもの半数が「金山寺味噌」を知らないことが分かりました。そこで、子どもたちにとってより身近なものにしたいと考え、有田市内にあるT店の職人さんに製造方法などについて教えてもらうことを依頼しました。

金山寺味噌について詳しく学習できるこの機会に、どんな課題をもって進めていくのかを、子どもたちに話し合わせました。そして、武田さんに色んなことを教えてもらう前に、いくつかのことについて一人ひとり調べてみました。



- 金山寺味噌の歴史(名前の由来、代々伝わってきていること)
- 昔と今の材料 ○金山寺味噌を使ったレシピ
- どんな道具を使って作っているのか など。

6月上旬、T店の工場へ行き、麴を作る工程を見学させていただきました。米・麦・大豆を蒸し、種麴をつけるところや、むしろ・もろふたへ移し、保温室へ入れるところを実際に見ました。蒸し上がった時に出る湯気や香り、職人さんの手作業の様子や真剣な表情、工場の中に置かれている沢山の道具など、子どもたちにとっては初めて見たり感じたりしたことばかりでした。見学の一週間後、武田さんにゲストティーチャーとして教室に来てもらい、金山寺味噌について詳しく教えてもらったり、子どもたちの方から分からないことを質問したりしました。また、7月上旬には、武田さんの指導の下、金山寺味噌の仕込み方を体験し、多種類の材料を混ぜて漬けることや作業に手間暇がかかることを実感できるようにしたいと考えています。

この学習を通して、子どもたちには金山寺味噌の味だけでなく、それを作る職人さんの思いや技の工夫に迫らせ、和歌山県民として金山寺味噌のもつ魅力や素晴らしさに気付かせたいです。そして、物事に真剣に取り組む考えようとする姿勢を身に付けてほしいと願っています。



複式5・6年の算数科学習

～ 自分たちだけで進める学習をめざして ～

算数科

5・6年F組担任
土岐 哲也



複式学級では、2学年同時に別々の授業を行います。教師は2学年の間を「わり」歩いて指導にあたります。それゆえ、教師が1つの学年の子どもたちの様子を常に観察し支援することができません。教師がいない間、子どもたちは自分たちだけで学習を進めていかなければならないのです。そこで、次の2点を考えました。

- ①子どもたちの自発的な話し合いが生まれるような課題を工夫すること。
- ②個人思考の時間を確保すること。

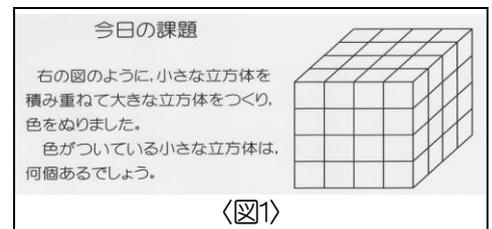
①の子どもたちの話し合いが生まれるような課題とは、子どもたちの興味や関心、多様な考えを引き出せるような課題だと考えています。また、自分の考えをしっかりと持たせて話し合いに臨ませるために②の個人的な思考の時間を確保するようにしました。このような2点について、子どもたちが自分たちで進める学習ができないか、5年生の「体積」の学習で検証してみました。

課題の工夫

導入で、図1の課題を設定するにあたって次のようなことを考えました。

まず、体積を考えると、1立方センチメートルを単位量として意識させたいので、立方体の個数を数えさせることにしました。個数を数えるという操作は、子どもにとってわかりやすい作業ですが、念頭操作で解決しようとすると、なかなか難しいものです。その簡単そうで難しいところに、子どもたちが興味をもつのではないかと考えました。

また、色の付いた小さな立方体を数えるとき、面積を求めるような方法で解決しようとする子がいるのではないかと予想しました。そうすれば、子どもたちの自発的な話し合いが生まれるのではないかと考えました。



表現し合うことで学びを高める

実際、子どもたちが考えた方法は、図2のようなものでした。式を書いた子以外の子どもに説明させながら、それぞれの考えを交流させました。その中で、次のような発言が聞かれた。

C1:「重なりを考えていないからおかしいんだ。」

C2:「どこが重なっている？」

C3:「角っこのところ」

C4:「1つの立方体の3面色がついてるから、3回数えてしまっている。」

C5:「全部の個数を数えてもおかしいんじゃない？」

C6:「そうだ、立方体の中に色のついていない小さな立方体がある。」

T:「色の付いている面の数で分けて数えてみたらどう？記録係さん板書できるかな？」

子どもたちは、数え始めました。そのうちC6の子が言い出しました。

C2:「何かよくわからないようになってきた。」

そこで立方体の積み木を子どもたちにわたした。

C2:「先生、こんなの持っているんなら早く出してよ。」

といいながら、大きな立方体を作り始めました。それでも、わかりにくいようで、「先生、積み木に色をぬってもいい？」と聞いてきた。「いいよ。」と言うと、子どもたちは、絵の具を引っ張り出してきて色を塗りだした。ここまでくれば、問題解決までに時間を要しません。「真ん中の8個に色がついていない。」「だから、 $4 \times 4 \times 4 - 8$ で56個だ。」みんな意気揚々としていました。

この話し合いの中で、子どもたちは、具体物を使って解決する方法を見つけられたし、平面から立体へのイメージ作りができたように思います。何より、教師が中に入らなくても子どもたちだけで学習を進められました。今までの経験から自分たちで学習を進めていくという土壌が培われてきている力を感じるとともに、この子どもたちのように単式学級でもこのような学習ができるのではないかと感じた1時間でした。

- ① $4 \times 4 \times 6 = 96$ 個
縦に4つ、横に4つの面が6面あると考えた。
 - ② $4 \times 4 \times 4 = 64$ 個
縦4個、横4個の16個が4段あるという考え。
 - ③ $4 \times 4 \times 2 = 32$ $4 \times 2 \times 4 = 32$
 $32 + 32 = 64$ 個
(説明略)

〈図2〉



生命の不思議や神秘性を感じるために！

～チョウを育てようの單元より～

理科
3年A組担任
馬場 敦義



★自然事象の本質をさぐり、その不思議や神秘性を感じる

3年生の理科，4月から6月上旬は植物や動物の飼育・観察が中心となります。子どもたちは，生物を生活科で学んだり，家庭で飼育したりしてはいますが，まだまだ十分観察することができません。そのため，子どもたち一人ひとりに対象と深く関わられるような環境を保証していく必要があります。

★モンシロチョウの観察 “たまご→幼虫→さなぎ→成虫→たまご→”の観察へ

恥ずかしながら，これまで成虫の観察は十分にできていませんでした。餌の問題などがあり，頭・胸・腹や足の数，羽の数を観察した後は，成虫を逃がしていたからです。しかし，成虫の生態を調べることももう一度卵を産ませ，その後も観察を続けることは大切なことです。今回，成虫になった後も観察できるように，以下のような手立てをして実践しました。

たまごの観察

窓から中を観察できる

もう一度、たまごへ

大きな虫カゴ (キッズ用テント)

プラスチックのカップ

①大きな虫カゴ：ホームセンターで上記のような子ども用のテントを購入しました。観察は窓から行うことができ、動物園で動物を見るような感じで子どもたちは観察し、発見していました。(板書記録・左下参照)

②成虫の餌：マリーゴールドと吸蜜器を置くことにしました。(右下参照)

～吸蜜器の開発～

単に脱脂綿に砂糖水を染み込ませたものでは、自発的なモンシロチョウの吸蜜はなかなか起こりません。吸蜜器とは、モンシロチョウが好む黄色の花を人工的に作り、自発的な吸蜜を可能としたものです。実際に吸ってくれました。

テントの内部の様子

モンシロチョウの成虫で発見したこと

1. ストロ-が黒色
花のつぼみ、わが花の葉
7. たまごうんでみた
おりにおけていた 産卵
2. 足の先が黒色
6本だと 形がなまらう
8. 羽がふたたび、キザキザ
3. モンシロチョウだけ、羽が黄色
モシロウとモンシロウが
黄 白
- モシロ・アゲハ
とまてるとき 羽がはいてた、
とまてるとき 羽がはいてた、
4. 成虫より幼虫で口の形がう
5. 顔にものようなもの
6. チョウの目につぶつぶーきかぶり色

成虫を継続して飼育することができたことで、「成虫が花の蜜を吸うところ」や「止まっているときには羽をとじていること」，「交尾をする様子」，「キャベツに産卵する様子」などこれまで観察させることができなかつた成虫の様子を実際に観察することができました。やはり，自然事象の本質を読み解いていくためには，対象と深くかかわることが必須条件であることを再確認しました。これからも対象と深くかかわることを大切に理科の学びをすすめていきます。

見直そう 食事と生活のリズム

～かんたん＆おいしい野菜料理を考えよう！～

〔家庭科〕

6年C組 担任

藤原 ゆうこ



◇ほく・私の朝食調べ◇

本題材では、自分の生活リズムを振り返り、朝食の取り方に関心をもってよりよい朝食にしていこうとする意欲をもたせることをねらいの1つとして取り組んだ。

クラスの子どもたち全員が、ほとんど毎日朝食をとっているという実態であったので、まず、朝食がなぜ必要なのかを調べ、確認し合ってから、その内容を考えようと、平日3日間の朝食を右のように絵であらわすという活動を取り入れることとした。絵で表してみると、「品数が少ないな」「全く野菜を食べていない」「緑の食品がない」「黄色ばかりや！」等、子どもたち自身が気付き始め、2日目、3日目と、食材を栄養素によるはたらきにより分類しながら整理する子も多数出はじめた。

互いの朝食を紹介し合う中で気付いたことは、ほとんど「朝食で野菜をとっていない」ということだった。学級児童29名の3日分、87食中60食が野菜なしメニューであることを知り、驚いている様子であった。「でも、別に野菜食べなくても・・・」というある児童の言葉を受けて、「そんなことない。野菜を食べなかったらおなか痛くなったりするよち？」「かぜひきやすくなるって聞いたことある」と子どもたちが野菜について興味を持ち始めた。そこで「野菜は絶対に必要か」についてみんなで話し合った結果「絶対に必要」となった。



◇かんたん＆おいしい野菜料理◇

野菜が絶対に必要なことを共通理解してから、朝食にふさわしいメニューの条件を話し合った。調理時間や手順が「かんたん」であること、朝から食欲がなくても食べられるよう「おいしい」ものであることの2点に絞られたので「かんたん＆おいしい野菜料理」を考え、実際に調理実習することになった。約束としては、材料は家の冷蔵庫にあるもの、調理時間は10



分。ペアを作って一人が料理人となり調理をし、もう一人が観察人となり料理人を評価。できあがったらペアで役割を交代。事前に家で練習してきた子どもも多く、少しオーバーの15分程度で全員が作る事ができた。

◇「師匠」となった子どもが子どもたちへ伝える◇

全員のメニューをもとに、クラスみんなで投票し、「これはかんたんで賞」「これはおいしそうで賞」「アイデアすごいで賞」「野菜たっぷり健康で賞」を決定した。そして、選ばれたメニューを考えた児童が『師匠』となってクラス全員に伝え、次は全員で同じメニューの実習を行った。



2度目の野菜を使った実習ということもあり、師匠からの「炒める順番は・・・」「おいしく作るためのポイントは・・・」「〇〇の時の火加減に注意してください」等、具体的な指示のもと、子どもたちは意欲的に取り組み作ることができた。「うん、これは朝からでも作れそう」「朝からでも食べたくなりそう」という感想が聞かれ、師匠となってがんばった子どもたちも大満足。次は、学校給食のメニューとしてとりあげていただき、全校児童への発信へとつなげていく予定である。

CO（要観察歯）をもつ子どもへの保健指導 ～保健室での個別指導～

学校保健
養護教諭 嵐村誉子



子ども一人ひとりをよく知り、大切にしたい思いをもって、保健室経営を行っています。

子どもの健康問題の解決に向けて、個々の実態に合わせて対応したいと考え、保健指導では個別指導に力を入れています。今回はCO（要観察歯）を持つ子どもへの個別指導を紹介します。



CO（要観察歯）



準備物：ワークシート・COの写真・むし歯の進度表・拡大鏡・歯鏡・歯の模型と歯ブラシ・子どもは自分の歯ブラシを用意

- ① COについて説明：COの写真を見せて形状を知らせます。そして、むし歯の進度表と照らし合わせてブラッシングで元に戻る可能性があることを話します。
「なおるん？」と不思議そう。でも喜びます。
- ② COの歯を観察：ワークシートでCOの位置を確認してから、実際に拡大鏡で見ます。黒いすじが入っている歯を発見！
「ここにあった！」「写真と一緒にや！」
- ③ 時間があるときは口腔内カメラでも観察します。
「わかった！このすじ！」「これこれ！」大きく映し出されてよく見えます。みんなで情報が共有できます。
- ④ 模型でみがく練習：自分のCOと同じところの歯を、歯ブラシの毛先を使って、みぞに入るようにみがきます。
- ⑤ 自分の歯をみがく：模型で練習した方法でみがいてみます。
- ⑥ ワークシートを仕上げる：COをなおす方法（ブラッシング・食事に気をつける・よく観察する・歯医者で相談）を確認し、わかったことや気をつけることなどを書き込みます。持ち帰って、おうちの方からもひと言書いていただきます。
- ⑦ 家庭からワークシートが戻ってきたら、養護教諭からのコメントをいれてお返しします。



口の中は狭くて暗く、その上自分で実際に見ることはできません。まだ手先が器用でない子どもにとって、歯みがきは難しいものです。

教室での集団指導とは違い、保健室での個別指導では、子どもは自分の歯の状態を理解し、自分の歯にあったみがき方を習得できます。また、同じ健康問題をもつ仲間と出会い、互いに励まし合うことができます。

そして、子どもに触れながら口の中を見たり、歯をみがいたりすることは、養護教諭にとって子どもとの絶好のコミュニケーションの機会となり、一人ひとりをよく知り、丁寧にかかわることができます。



インタビュー名人になろう！

～子どもたちの「やってみたい」を言語活動に～

国語部
2年A組 担任
静川 郁子



2年生の子どもたちは、「知りたい！やってみたい！分かってほしい！」と毎日意欲満々に学習に向かっている。そんな子どもたちに、どうすれば十分に答えられるか、また、つけたい力を確実につけられるのか、先輩の先生方に指導を仰ぎながら授業を創っている。

本年度の国語部研究テーマは「『発想力』『論理力』『表現力』を育てる～言葉と言葉・文と文のつながりを意識した対話を通して～」である。教材と友だちと、そして自分との間で豊かな対話が生まれるように、この5月には、光村図書「たんぼぼのちえ」を用いて以下の2点を大事にした。

1. 課題意識をもって単元学習に入ることができるように

生活科で十分にたんぼぼに触れあえるようにした。実際に「茎がぐんぐんのびているよ」「花が綿毛にかわっているよ」という発見をした後で、教材文に出合うようにした。

2. 子どもたちの「やってみたい」を言語活動に

様子とわけを考えながら読むことができるように「たんぼぼさん」にインタビューし、答える学習活動にした。子どもたちは、教材文を何度も読み返しながら、たんぼぼになりきり、楽しみながら答えていた。



自問自答を繰り返し、ワークシートに書き込む姿



ペアになりインタビューし合う姿

今後の展望

物語文「スイミー」においても、主人公スイミーにインタビューしたいと考えている。スイミーにインタビューし、スイミーになりきって答えることを通して、スイミーが見た世界を子どもたちも想像を膨らませながら味わえるようにしたい。そうして、子どもたちが、作者レオ＝レオニの世界に浸り、谷川俊太郎さんの言葉の響きを感じ、二人の作品がもっと好きになり、進んで読書をしたり、自分の表現にも取り入れていけたりできる学習にしていきたい。

From Editors

『らいぶ・創りえいた一』も12年目を迎えました。「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を込めています。

本校ホームページにはカラー版を掲載しています。ご意見・ご感想をお寄せ下されれば幸いです。

編集委員：松尾，中田，居澤，小杉，上田，則藤

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号

TEL (073) 422-6105

FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>

E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp